

平成 27 年度 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）

CLoCMiP 活用推進ワークショップ（中四国ブロック）開催要綱

1. 目的

日本看護協会では、院内助産システムの推進のため、周産期医療体制の整備（産科混合病棟のマネジメント）のあり方や、助産師の養成および育成などの課題に取り組んできている。平成 24 年度の全国調査では、助産師の量（働く場と働く助産師）と質（助産実践能力）をめぐる課題が明らかとなった。そこで平成 25 年度から「すべての妊産婦と新生児に助産師のケアを提供し、安全で安心な妊娠・出産・育児環境の整備」を目的に、助産師の「質」と「量」の課題に取り組んでいる。質を巡る課題では、院内助産システム推進には助産実践能力強化が不可欠であり、臨床での助産実践能力の育成とその体制整備が必要であることから、平成 25 年 8 月に「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）活用ガイド」、平成 26 年 8 月に「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）活用ガイド解説編」を発行し、普及・啓発している。

中国・四国地区でも、平成 26 年度 9 県助産師職能委員長・職能委員が連携・協力し、助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）活用の普及・啓発に取り組んでいるが、各県ともに、施設格差や助産師自身の意識格差などに課題があり、管理者の理解、助産師個々への浸透、研修体制整備・研修の工夫などについて、情報提供・情報共有することが必要であると思われる。これまで中国・四国地区では、9 県看護協会の協力のもと、9 県助産師職能委員会と日本看護協会助産師職能委員（中国・四国地区担当）と協力して、平成 24 年度は岡山県で「院内助産システム推進ワークショップ」、平成 25 年度は山口県で「助産師のクリニカルラダー推進ワークショップ」、平成 26 年度は広島県で「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の活用推進ワークショップ」を合同開催してきた。

そこで平成 27 年度、昨年に引き続き「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の活用推進ワークショップ」を香川県で開催することにした。本ワークショップでは、参加者が助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の理解を深め、自施設で活用していくための課題とその解決方法を見出すことができること、クリニカルラダーを活用して助産実践能力強化を図り、地域における安全・安心な出産環境を整備し、今後の院内助産システムへの取り組みにつながることを目的とする。

※日本看護協会が開発した「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）」は、今後

Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice 通称“CLoCMiP(クックミップ)”と称す

2. 日時

平成 27 年 9 月 19 日（土） 9：30～16：30

3. 会場

香川県看護協会看護研修センター

4. 参加者

100名：中国・四国地区看護協会助産師職能委員長および助産師職能委員

中国・四国地区の産科病棟および産科混合病棟看護管理者および教育担当者

（看護部長、看護副部長、教育担当、師長、副師長、助産師教育に携わる方）

日本看護協会助産師職能委員（中国四国ブロック担当）

5. 参加費

無 料

6. プログラム

別紙参照